

伝統的な衣服の素材

アイヌ文化では、入手可能な原材料を工夫して使います。シカ、キツネ、アザラシの毛皮を使って服を作り、魚の皮を使って靴を作り、ニレの樹皮やイラクサの茎といった材料から繊維をとって布を織ります。19世紀半ばには、本州から綿がより広く手に入るようになり、アイヌは綿の服を作りはじめました。現在でも、儀式や特別な機会があると、アイヌの男女は着物のような形の上着を着ます。この上着には幾何学模様の刺繍と縫い付け飾りが施されています。よく見られる模様には、うず模様やとげ模様などがあります。これらの衣服の中には、本州から交易で入手した着物を直したものもあれば、着物の絹の布きれを飾りとして使ったものもありました。